

門司港地域複合公共施設基本設計

市民ワークショップのまとめ

令和2年11月  
北九州市

## この様なワークショップを開催しました

### 目的

建替えが必要な公共施設を門司港駅周辺に集約し、複合公共施設として新しい公共施設・公共空間をつくります。

複合公共施設（ホール、生涯学習センター、図書館等）の詳細な配置や機能を決めていくうえで、「門司にはどういった使い方ができる公共施設・公共空間が必要なのか」についてワークショップを通じて参加者のみなさまに意見を出してもらいます。出された意見すべてを基本設計に反映できるものではありませんが、より良い複合公共施設とするために多くの分野の皆さまと一緒に考えていきます。

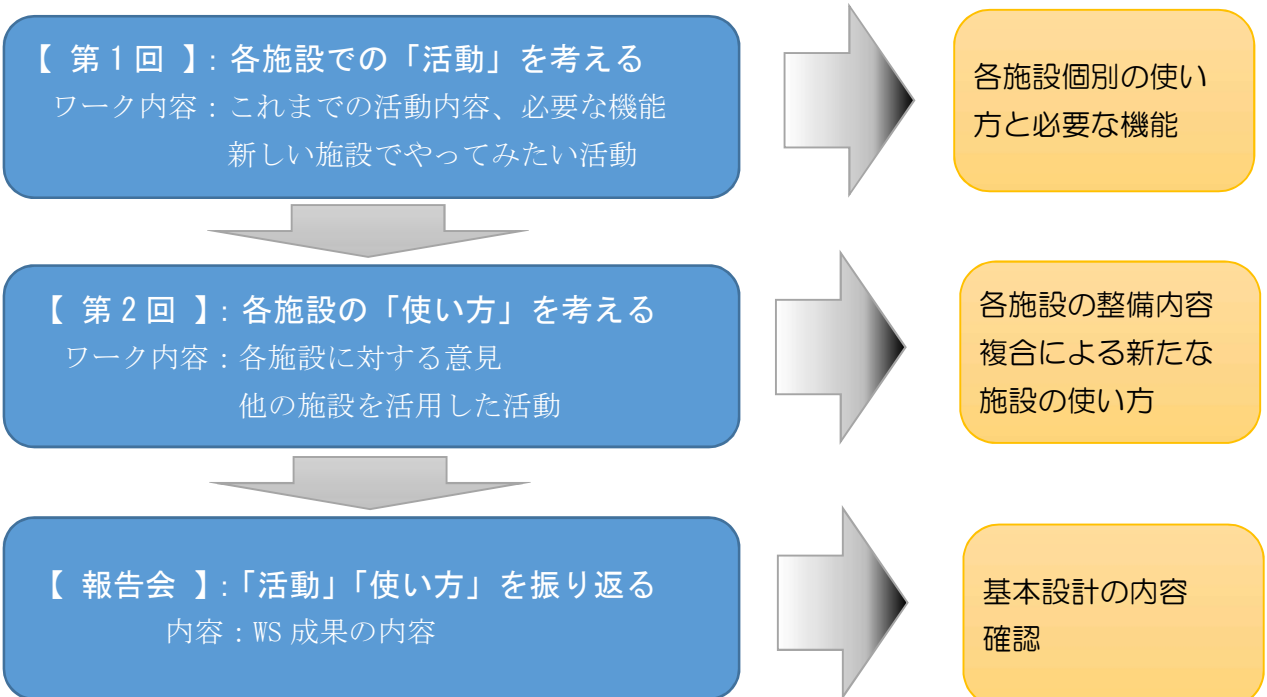
### 体制

司会・進行：石本・海渡設計共同企業体（基本設計業務受託者）  
事務局：北九州市

### 参加者

ホール利用者、生涯学習センター利用者、図書館利用者、まちづくり団体、学生、一般応募

### ワークショップの流れ



## 第1回ワークショップ

- テーマ：各施設での「活動」を考える
- 内容：これまでの活動内容、必要な機能  
新しい施設でやってみたい活動
- 日時：7月11日（土）14時00分～16時00分
- 場所：港ハウス（観光物産館）2階ホール
- 参加者：20名  
（Aグループ：7名 Bグループ：6名 Cグループ：7名）
- グループ発表の概要

### Aグループ（ホール）

ホールを利用している立場として将来が非常に楽しみだと感じた。活動の誇りとなるようなホールにしたい。

### Bグループ（生涯学習センター）

観光客とのつながりを持たせることでよりよい施設になるのではないかと感じた。

### Cグループ（図書館）

図書館は、静かなだけでなく、活動的な部分もあった方が良い。観光客の方にも訪れてもらえるような施設を目指したら良い。

■第1回ワークショップの状況



## 第2回ワークショップ

- テーマ：各施設での「使い方」を考える
- 内容：各施設に対する意見
- 日時：7月21日（火）18時30分～20時30分
- 場所：港ハウス（観光物産館）2階ホール
- 参加者：18名  
（Aグループ：7名 Bグループ：4名 Cグループ：7名）
- グループ発表の概要

### Aグループ（ホール）

学生が吹奏学部や合唱団などの練習の場としても使えるようにして欲しい。また、門司区民が優先的に使える施設にして欲しい。

コンパクトでも本格的（音響等）に使えるホールにして欲しい。演者さんがスムーズに舞台利用でき、バス等で市外や海外から出演しに来た人たちにとってもスムーズにホールに行けるような施設にして欲しい。

### Bグループ（生涯学習センター）

若い人は生涯学習センターを使わない印象や、使い方が分かりにくい印象があるが、イベント等を行うことで、何にでも使えることを多くの人に分かってもらえるような施設にしたい。

### Cグループ（図書館）

高齢者のコミュニケーションの場所、地元の人待ち合わせ場所、観光客がまず訪れる場所となるような「多くの人が集う」図書館になってほしい。

門司に住んでいる人たちのノウハウをお互いに披露しあってスキルを高めていくような、門司の特徴を活かした施設にしてほしい。



■第2回ワークショップの状況



## ワークショップ報告会

■ テーマ：「活動」「使い方」を考える

■ 内 容：WS成果の内容

■ 日 時：9月26日（土）10時00分～11時30分

■ 場 所：港ハウス（観光物産館）2階ホール

■ 参加者：18名

（Aグループ：7名 Bグループ：6名 Cグループ：5名）

■ 2回のグループ発表について報告されたもの

		グループ発表意見	目指したイメージ・基本設計のポイント
ホール	第1回ワークショップ	<p>ホールを利用している立場として将来が非常に楽しみだと感じた。</p> <p>活動の誇りとなるようなホールにしたい。</p>	<p>●目指したイメージ</p> <p>駅に隣接し、だれもが気軽に利用できるホールの在り方は特徴的です。様々なアクティビティを許容する器をつくることにより、門司港発のユニークな情報発信が期待されます。歴史的なコンテクスト（背景）を含んだ場の力を伴い、その発信力は活動の誇りとして、近い将来しっかりとした輪郭を持つと考えられます。様々な活動と門司港の歴史を継承する建物が一体となり「ここでしかない活動の在り方」を発信します。</p> <p>また、音楽や演劇、舞踊など多様な市民文化創造活動や音楽・舞台芸術鑑賞に対し、様々な目的に対してより良い環境となる「多機能型多目的ホール」としています。</p>
	第2回ワークショップ	<p>学生が吹奏学部や合唱団などの練習の場としても使えるようにして欲しい。また、門司区民が優先的に使える施設にして欲しい。</p> <p>コンパクトでも本格的（音響等）に使えるホールにして欲しい。演者さんがスムーズに舞台利用でき、バス等で市外や海外から出演しに来た人たちにとってもスムーズにホールに行けるような施設にして欲しい。</p>	<p>●基本設計でのポイント</p> <p>ホール楽屋は舞台と同レベルで150m<sup>2</sup>（主催者事務所含む）を予定、他にシャワー室、トイレ、洗面（各楽屋）を装備しています。生涯学習2階が庇付きの渡り廊下で同レベルとなりつながっているため生涯学習センター内の会議室等を楽屋として使用することもできます。また、ロータリーに面した1階にホールへつながるエレベーターを配置しており、立ち寄りやすい人の流れをつくり、搬入口との動線も分離しています。</p>

		グループ発表意見	目指したイメージ・基本設計のポイント
生涯学習センター	第1回ワークショップ	観光客とのつながりを持たせることでよりよい施設になるのではないかと感じた。	<p>●目指したイメージ</p> <p>観光客が訪れてみたいと思わせる施設の在り方として、気軽に立ち寄れる施設を目指しました。文化回廊に面して各施設を配置し、人のにぎわいが連続することで、各施設の相互利用・連携を施します。文化回廊の動線は散歩コースであり、様々なアクティビティーに出会えるコミュニティの場です。</p>
	第2回ワークショップ	若い人は生涯学習センターを使わない印象や、使い方が分かりにくい印象があるが、イベント等を行うことで、何にでも使えることを多くの人に分かってもらえるような施設にしたい。	<p>●基本設計でのポイント</p> <p>文化回廊側はガラス張りとしており、外から中の様子がうかがえるなどの工夫をしています。また、生涯学習センターは会議室・多目的室（音楽室）・和室・美術工芸室等を有しており、多種多様な使用に対応しています。</p>
図書館	第1回ワークショップ	図書館は、静かなだけでなく、活動的な部分もあった方が良い。観光客の方にも訪れてもらえるような施設を目指したら良い。	<p>●目指したイメージ</p> <p>観光客が訪れてみたいと思わせる施設の在り方として、気軽に立ち寄れる施設を目指しました。文化回廊の動線は散歩コースであり、様々なアクティビティーに出会えるコミュニティの場です。</p>
	第2回ワークショップ	<p>高齢者のコミュニケーションの場所、地元の人々の待ち合わせ場所、観光客がまず訪れる場所となるような「多くの人が集う」図書館になってほしい。</p> <p>門司に住んでいる人たちのノウハウをお互いに披露しあってスキルを高めていくような、門司の特徴を活かした施設にしてほしい。</p>	<p>●基本設計でのポイント</p> <p>門司港駅と近く、見通しがよくバリアーのない1階のワンフロアに図書館を配置したことで、開かれた明るい空間になるように設計しています。また、文化回廊側はガラス張りとしており、外から中の様子がうかがえるなどの工夫をしています。図書館では文化回廊から見やすい位置に地域図書配置を行うなど、人々や情報の集まりが、初めての人でもわかる施設としています。</p>

■その他ワークショップで出された意見は、

別紙「その他ワークショップで出された様々な声」を参照してください。